

令和6年度 園内研修報告書

テーマ

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫

～身近な自然の豊かさを感じながら、仲間の声を大切に共に考えたり、工夫したりする遊びを通して～



園内研修メンバー

園長	熊田 紫香		
主幹保育教諭	与儀 和歌子	仲田 朋弘	
保育教諭	宮平 希	上地 奈葉香	知念 美明
	當眞 真依子	仲宗根 歩由美	仲村 隼
支援員・保育補助	知念 洋子	玉寄 邦子	

南城市公私連携幼保連携型認定こども園 知念こども園

目 次

I	テーマ設定理由	1
II	目標	1
III	方法	1
IV	内容	1
V	園内研修年間計画	2
VII	実践事例	
	事例（１）「仲間の声から広がる知念の秋～」	3－6
	事例（２）「知念の宝石」～光って不思議だね！！～	7－12
	事例（３）「ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、 保育の質の向上」	13
VIII	まとめ	14

園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫

～身近な自然の豊かさを感じながら、仲間の声を大切に共に考えたり、工夫したりする遊びを通して～

I テーマ設定の理由

近年 少子化、核家族化が進行し、こども同士が集団で熱中し、時には葛藤しながら互いに活動し合う機会が減少するなど様々な体験が失われている。また、情報化の進展によって、こどもの生活空間の中に自然や広場などの遊び場が少なくなる一方で、テレビゲーム、インターネット等の室内遊びが増えるなど偏った体験が余儀なくされており、こども達を取り巻く環境も大きく変化している。そういった激しい時代の変化の中、自分で考えて判断する、進んで行動する、意欲をもって活動するなどの主体的に遊びこむ力を育むことが求められる。

本園は3歳児から5歳児までの3クラスの60名が在籍している。自分の感情を素直に表現でき、自分の意見や考えをしっかりと伝え、伸び伸び体を動かして遊ぶことが大好きなこども達である。しかし、身近にある豊かな自然環境に触れて楽しんだり、遊びこんだりする力や探究心が弱いと感じる。特に遊びの継続、発展しないことが課題である。

そこで、身近な自然の豊かさを感じとり、仲間との声を大切にしながら共に考えたり、工夫したりする遊びを通して、園児が遊びこむことができるのではないかと考え本テーマに設定した。そのための環境構成、援助の工夫を探っていききたい。

II 目標

身近な自然環境に触れ、仲間と共に考えたり、工夫したりする体験を通して、園児が遊びこめるような環境構成や援助の工夫を探る。

III 方法

- 1 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、理論研究を行う
- 2 ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、保育の質の向上を図る
- 3 園児が遊びこむための環境構成、援助の工夫を図る

IV 内容

1 遊びこむとは

- ・没入している状態、集中している状態である
- ・こども達ならではの発想によって、遊びが展開、継続している過程の状況
- ・遊びの素材を使いこなし、我が物としていく状況



遊びこむ経験

☆こどもが主体的に遊びに入り込むような経験

- ・自由に好きな遊びをする
- ・好きなことや得意なことを活かして遊ぶ
- ・遊びに自分なりの工夫を加える

※ベネッセ教育研究所より

- ・挑戦的な活動に取り組む
- ・先生に頼らずに制作する
- ・見通しをもって、遊びをやり遂げる

☆遊びこむために大切にしていること

- ・こどもの思いを理解しようと努める
- ・遊びこめる場、時間、教材を考え、環境作りを心がける
- ・こども達の思いや活動をつなげていく
- ・こどもの言葉や自由な発想、考えや発見、気付きを丁寧に受け止めていく

2 ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、保育の質の向上

- ① 保育教諭が保育の中で捉えたこどもの姿を、ドキュメンテーションを活用することで園全体の共有につながる
- ② こどもたちの姿が見えるようになることで、その場にいなかった他の職員、保護者と一緒に語り合う事のきっかけにつながる。
- ③ 職員、保護者との対話は、保育教諭の「こども理解」を一人で向き合うよりより深いものにすることができる。それが保育の展開の新しいアイデアや考えを深めることにつながる
- ④ 皆と深めたこども理解は、次の保育の場面で保育教諭がより豊かにこどもの姿を読み取ることに繋がる。
- ⑤ その読み取りが、ドキュメンテーションで「見える化」され、再度職員や保護者への共有につながる。
- ⑥ さらに「こども理解」が園全体として深まる
- ⑦ 保育教諭を支え、園の皆で保育を育むことに繋がる。

V 園内研修年間計画

月 日	研修内容
4 月	・ 園内研修（保育の中のこどもの声について考える）
5 月	・ 5 園研修会（南城市主催）講師：名渡山 よし乃氏 講話「遊びこむための環境構成の工夫と援助」
6 月	・ 事例検討会①
7 月	・ 公開保育（大里こども園職員）
8 月 9 月	・ 公開保育に向けての保育検討会
10 月	・ 事例検討会②
11 月	・ 公開保育（南城市幼小連携事業）
12 月	・ 成果と課題について

Ⅵ 実践事例 1 「仲間の声から広がる知念の秋～」 4 歳児クラス 21 名 11 月

＜園児の姿＞

- ・廃材で迷路を作り、どんぐりを転がして遊ぶ姿がある。

＜保育教諭の願い＞

- ・身近な自然の豊かさを感じ楽しみながら、自分たちなりの「秋」を感じてほしい。

＜環境構成＞

- ・不思議に思った事や、知りたいと思ったときに調べる事ができるように、図鑑や絵本を用意する。
- ・子どもたち同士で、意見や考えが伝え合えるような話しやすい雰囲気を作っていく。
- ・子どもたちのつぶやきや考えをクラスの友達と共有する機会をつくり、遊びの展開や友達の関係が深まっていくようにする。

＜保育教諭の援助＞

- ・子どもたちの声や考えを大切にしながら、遊びが広がっていくように一緒に考えたり、一人一人の思いや気づきを大切にしていく。
- ・保育教諭も子ども達の様子を見ながら、一緒に楽しみ、子どもたちのアイデアが膨らむような、展開が広がるようなきっかけを意識していく。
- ・帰りの集まりの時間等で楽しみを共有しながら、次への期待感、遊びの発展へのきっかけにつなげていく。

11月6日（水）【黄色い葉っぱみ～つけた！】

涼しくなったある日、4歳児クラスが散歩に行くと M ちゃんが「葉っぱが黄色くなってる」と気付く。そして黄色い葉っぱの大・中・小それぞれの大きさの葉っぱを拾う。そして、それを他の友達に見せたいというのでクラスみんなに見せることにした。すると他の友達から「秋だからだよ」「秋の葉っぱだよ」という声が出てくる。みんなも「秋のものを拾いたい」ということで、「秋を見つけに行こう」と散歩に行くことになった。

10の姿とのつながり
[思考力の芽生え]
[言葉による伝え合い]
[自然との関わり、生命尊重]



なんで黄色になっているのかな？

11月12日（火）

【ススキも秋の葉っぱ】

黄色や赤の葉っぱや木の実に夢中の子どもたち。初めはススキを気にも留めていなかったが、ある子が「ススキも秋の葉っぱだよ」と言うとススキを取り始めた。ススキを取り、何をしてるのかな～と思い子どもたちに聞いてみると・・・。



保 「何してるの～？」

H 「ススキを濡らして～
お掃除してるの」

保 (お絵かきしてるのか思っ
たら、お掃除してたのね)

11月12日（火）

【これってお米ができるの！？】

散歩でススキを取って帰りながら、Rさんが「これってお米ができるんだよ」と言うと「そうだよ、お米ができるんだよ」と何名かが言い始める。園に帰ってきてても「ただいま～お米ができるやつ持って帰ってきたから、これでご飯作ってね」と言っていた。これはススキでお米ができるものではないと知っている子もいる。



お米ができるものと思っている子が、図鑑を見て稲を調べる。
稲の写真とススキを見比べて、穂の違いに気付く。
それでも、O君はこれ(ススキ)に水をかけるとこんな風に(稲)になるかもと考える。



①



②



③



④



- ① 一番、お米になりそうなものを選ぶ。「よし、これだ！」
- ② 穂に水をかけてみる。
- ③ 水で濡らした穂を触てみると「大きくなった気がする！！」
- ④ 「みんな～朝来たら、これに水かけしてね」とみんなにお願いする。

☆これでやってみて、お米ができなければそうじゃないってこと！
納得するまでやってみる！

10の姿とのつながり

【健康な心と体】 【思考力の芽生え】

【言葉による伝え合い】

【自然との関わり、生命尊重】

11月13日（水）

【ススキで絵が描ける！！】

O君の「水をかけてね」の願いを聞いて、朝ススキに水をかけていた女の子たち。水かけをしていたはずが・・・ススキの穂が濡れて、それで絵が描けると気づき、テラスや窓に絵を描き始める。



たのしい～！！でも水だとすぐ消えちゃう。
絵具でお絵かきしたいね！

【ススキを取りに行こう！！】

このことをクラスのみんなに話をする
「やってみたい！」

ということで・・・またまたみんなで
ススキ取りにレッツゴー♪



散歩でススキを取りに行つて、みんなでお絵描きしよう



【さあ！！お絵描き開始！！】

ススキの穂で絵を描く子。
茎の先で絵を描く子。「花火みたい」と夢中になって絵を描き楽しむ姿があった
色を混ぜて、色が変わっていくことに気付いたりと色の変化の不思議さも感じている。



10の姿とのつながり

[思考力の芽生え]

[言葉による伝え合い]

[自然との関わり、生命尊重]

[豊かな感性と表現]

[協同性]

11月14日（木）

【ススキでお茶！！】

ねえ、これ先生がいつも飲んでるお茶ができるやつでしょ？

保（いつも飲んでる十六茶のことかなあ。）

ペットボトルのラベルの所に稲のイラストがあるから、

そのことを言ってるのかな。

そもそもススキがお茶にならないしなあ。

と思っていたら、他の保育教諭が調べるとなんとススキ茶というものがあるという事が判明。



そこでそのことをこどもたちに伝え、「ススキでお茶を作りたい」という声が。

ススキでお茶を作るため、みんなでススキを取りに行き、ススキ茶作りが始まりました！



ススキの穂をフライパンで炒めると、「**なんかにおいがする**」とこどもたち。ある子は「**なんかパチパチ音がするよ**」と言い、みんなで耳を澄まして聞く姿も。

☆聴覚・嗅覚の育ち☆



炒った穂を触り「さっきより固い」と違いに気付く。

☆触覚の育ち☆



少しだけ色が出てきてる

☆視覚の育ち☆



「おいしい」とおかわりする子と「にがい」と飲めない子に分かれる。

☆味覚の育ち☆

10の姿とのつながり

【思考力の芽生え】

【言葉による伝え合い】

【自然との関わり、生命尊重】

五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）

【考察】

- ・11月6日にMさんが黄色い葉っぱの変化に興味を示している事を気付けることは、日頃担任が意識しているところである。担任は「秋を感じてほしい」という願いはあるが、すぐには言葉にしない。そこで朝の集まりや、帰りの振り返りでこどもたち同士で気付きや発見、考えを話し合わせる事でやっとそこでこども達から「秋だからだよ」という言葉のキーワードがで出る。その言葉から秋に興味、関心が広がっていったのは感じられる。日頃から担任はこどもたちの発言やアイディアを否定せず認めている。そうすることでいろんな子が様々な考え、アイディア、発言を躊躇しなくなる。その過程があつてこそこどもの声からの遊びこみに繋がった。
- ・こどもたちの言葉や発見、気付きが遊びこむことへのきっかけになり、その事をクラスで話し合うことで全体に興味、関心が広がり、それぞれの「秋」を楽しむ遊びこみに繋がった。
- ・こどもたちの声や思いを遊びにつなげることで、「やりたい」という気持ちにつながり、友だち同士で自由な発想や考えを出し合いながら遊びこむことに繋がった。

実践事例2「知念の宝石」～光って不思議だね！！～（5歳児） 11月上旬～12月上旬

＜園児の姿＞

- ・コマ遊びをきっかけにコマスタジアム作りに発展。こどもたち同士で考えをだし合いながら、楽しむ姿がある。
- ・「コマスタジアムにライトで照らしたらもっと楽しくなるかも」とS君がアイディアが出る。
- ・砂遊びで砂の中にある小さなキラキラする石をN君が発見する。

＜保育教諭の願い＞

- ・身近な自然の豊かさを友達と一緒に楽しみながら「もっと知りたい」という気持ちにつなげたい。
- ・光の不思議さを感じ楽しんでほしい

＜環境構成＞

- ・こどもたちのつぶやきや考えをクラスの友達と共有する機会をつくり、遊びの展開や友達の関係が深まっていくようにする。
- ・疑問に思った事や、知りたいと思ったときに調べる事ができるように、図鑑や絵本を用意する。
- ・光遊びが楽しめるように、懐中電灯や障子紙を貼った手作りテレビ、カラーセロファン等を準備する

＜保育教諭の援助＞

- ・こどもたちの声や考えを大切にしながら、遊びが広がっていくように一緒に考えたり、楽しんだり一人一人の思いや気付きを大切にしていく。
- ・保育の振り返りで共有しながら、「もっとやってみたい」「光って不思議」等興味、関心につなげていく

【コマ・スタジアム作り】11月7日(火)

部屋でコマまわししていると床の隙間で上手く回らないことに気付いたり、周りで遊んでいる他の遊びが気になったりと、どうしたらもっとコマ遊びが楽しくなるかを考えだしたこどもたち。「テーブルの上で回したらいいかも」とアイディアが！！テーブルの置く場所も決め、テーブルの上でコマを回し楽しんでいると、テーブルから落ちるから楽しくないとの声が！「そうだ！横に段ボールをくっつけたら落ちないはず」とコマ・スタジアム作りが始まりました。



高すぎるとコマが見えなくなるから、少し低くしよう。

コマが落ちる場所も作ろう！



10の姿とのつながり
[思考力の芽生え]
[言葉による伝え合い]
[協同性]

オー！いい勝負！
どっちが勝つか
な？

【コマ・スタジアムに光を当てたい】 11月14日(火)

S君が「コマ・スタジアムに光を当てたらもっと楽しくなるかも」と提案してきました。懐中電灯を準備すると、友だち同士で協力し合いながら、角度を調整したり、どうしたら懐中電灯が固定できるかと考える姿も見られました。キラキラ光る折り紙にライトが当たると「とってもキラキラしてる！きれい」と喜ぶ姿や、直接カラーセロファンを懐中電灯にくっつけて「光が青になった」と不思議に感じる姿があった。



もう少し上にあげたらいいかな！！



高さはこれぐらいでいいかな？

もう少しヒモ長くして低くしよう。



光が青くなった！！



光が当たるとキラキラしてきれい！

「光るからきれい」とテーブル一面に貼るが、その上でコマが上手く回らず、結局折り紙をはがす。



10の姿とのつながり

【思考力の芽生え】

【言葉による伝え合い】

【協同性】

【砂場遊びから】 11月19日(火)

5歳児の男の子達数名が、砂場遊びをしていた。砂の中にある石を見ていたN君が石の中に小さくキラキラしているところがあることに気付く。

N君が「宝石だぁ！！！」と言うと、一緒に砂遊びをしていた他の子達も覗き込みに来て、「ほんとだ！宝石だ！」と言う。それから砂場での宝石探しが始まった。

先生 「何してるの？石を集めてるんだ～」

T君 「違うよ！宝石だよ！」

先生 「そっか。宝石なのね。」 保育教諭が石を拾い 「これも宝石かな？」

T君 「これはただの石！」

先生 「え～、何が違うの？」

T君 「先生、よく見てみ。石の中にキラキラしてるのがないと宝石って言わないの」

先生 「あっ、なるほどね」

こども達の中で、石と宝石との基準があり石をよく見てキラキラしたところがある物を宝石として集めていた。

集めた宝石をバケツから牛乳パックに入れ替えて、部屋に持っていく。集めただけで満足するのかなと思っていたら、『岩石・鉱物・化石』の図鑑を開いていろいろ調べていた



【ホントの宝石持ってきた】 11月20日(水)

次の日、昨日砂場で宝石集めをしていたうちの一人が

N君 「先生～ほんとの宝石見つけて拾ってきたよ～」

先生 「うわぁ！ほんとにきれいな石だね」

N君 「だから！石じゃなくて宝石だよ！」

先生 「そうだよ、宝石だ。どこで拾ってきたの？」

N君 「玉城の海。」「先生、紫色好きって言ってたからこの紫の宝石あげる」

そう言ってクラスに戻っていった。クラスの他のこどもたちも「ほんとの宝石」に興味津々。

【みんなで宝石取りに行きたい】 11月26日(火)

N君はその後も、宝石集めに夢中で図鑑を見たり、玉城の海に行ってはキラキラした宝石を拾って園に持ってきたりしていた。海に行くと、N君が持ってくるような宝石がたくさんあるかもしれない。みんなで宝石取りに行こうということになるが、28名で玉城の海に行くのは難しい。

クラスで話し合い、知念の吉富の海に行ってみようという事になった。そして、知念の海へ散歩で行ってみると・・・

探していた宝石は少なく、石を探す子もいたが、シーグラスがたくさんあり、シーグラスを「宝石」と言う子もいた。

シーグラスということを知っている子が「これはシーグラスって言うんだよ」と教えてくれた。



こども達はシーグラスに夢中になり、袋いっぱいシーグラスを拾って帰ってきた。



シーグラスをたくさん拾ってきたこどもたちだが、シーグラスを使って遊ぶことがなかった。

【保育教諭の願いと環境構成】

- ①たくさん拾ってきたシーグラスを使って遊んでほしい。
- ②5歳児クラスは以前の遊びの中で懐中電灯を使って光を当てたりしていたので、光の不思議にもっと気づいてほしい。
- ③お泊り保育があるので、その夜を利用して光で遊ぶことはできないか。
- ④お泊り保育で「こどもの国」へ行くので、題材は動物で。
- ⑤シーグラスもたくさんあり、光を当てることできれいに写るということで、先生達が、動物をモチーフにひとつシーグラスを使って作ってみる。



こどもたちに、まずはそのまま見せる。そのあと、光を当てて見せると「すごーい！きれい！」「作ってみたい」など反応も良く、みんなで作ってみようという事になった。

こどもたちのリクエストも聞きながら担任の先生達が動物の型紙をいくつか用意した。

お泊り保育の直前という事で、「お泊り保育の夜にやったら楽しそうじゃない？」と提案すると「楽しそう～」「夜の動物園みたい」「夜の動物園作ろう」という声が上がってきた。

お泊り保育の楽しみがまた一つ増える。

【夜の動物園作り】 11月29日(金)

お泊り保育当日、「こどもの国」で楽しんで帰ってきたこどもたちは一休みした後、すぐに「夜の動物園」作りをする。保育教諭が用意してくれた型紙から好きな動物を選び型を取り、穴をあけシーグラスを貼り付けていく。



【夕食前のひととき】

主幹保育教諭が、「夜の動物園」ができるように和紙を使って即席のスクリーンを準備する。「夜の動物園」は夕食後眠る前にする予定だったが、外部搬入の夕食がなかなか届かない間に、電気を消して「これなんだ？」のクイズを出したところこどもたちが「やりたい」と言い始め、順にやることになった。影絵遊びをしたことはなかったが、こどもたちがいろんな影絵を知っていることに驚いた。手で表現する子、自分の体を使って表現する子などいろいろいて、やる方も、当てる方もとても楽しんだ



【夜の動物園、はじまり！！】

夕食を食べ、お風呂にも入った後いよいよ「夜の動物園」のはじまり～！

一人一人作った物をスクリーンの後ろに行き、光を当てて見せる。懐中電灯を後ろから当てる係の人など、自分たちで役割分担もしていた。一人でやる子、ペアやグループでやったり動きをつけたり、思うように表現を楽しんでいた。



【私の亀は光らない・・・】

製作の時に、穴を空けずにシーグラスを貼り付けていた K さん。光を当てても自分の亀は光らないことに気付いて泣き始める。泣いている K さんに何人かが声をかける。「シーグラスをきれいにしてから、つけないとだめだよ」「シーグラス拭かなかったの？」など言う子がいるなか、やっと一人の子が「穴が開いてないからだよ」と教える。「やり直したい」とのことで保育教諭も少し手伝いながら作り直すことができ、最後みんなの前で発表することができた。



【今後の保育教諭の願い】

今回のお泊り保育で影絵やシーグラスの光のパネルシアター遊びが、やっている方も観ている方もとても楽しかったということで、これが生活発表会に繋がらないかなあ。自分たちで物語などを作ってやるといいなと思った。



【保育教諭の環境構成】 12月5日（木）

お泊り保育が終わると同時に影絵遊びや光の遊びをしなくなってしまったこどもたち。このまま遊びが終わるのは勿体ないという事で、和紙を段ボールに貼ったテレビの様な物を、部屋に設置してみた。



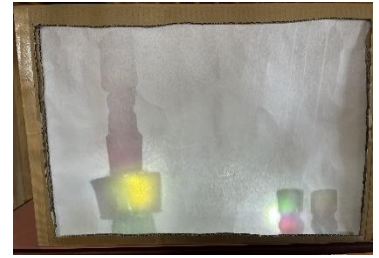
一度、光で遊んだことがあるのですぐに遊び出すこどもたち。最初は形のある物を作ったりして、影が映るのを楽しんでいた。動きもつけながら「ドラゴン」とイメージしながら遊んでいた。

【保育教諭の願い・援助】

形や動きだけでなく、シーグラスの時のように色も楽しんでほしい。カラーセロファンなどを環境として置こうか、どう置こうかと考えていた時に、こどもたちが廃材の容器に色を塗り遊んでいた。「この容器に光を当てたらどうなるかやってみる？」と保育教諭が提案すると「やってみたい」という答え。

【綺麗な色も映ったよ！】

色を塗った容器に光を当てて見ると、色も綺麗に映っていた。自分で懐中電灯を当てながら映り方を確認したり、友達に見てもらったりして楽しんでいた。



折り紙も光を当てたらどうかな、などいろんな物に光を当てて試す姿もあった。



【光の色が変わるよ！】

色のある物に光を当ててどう映るかを楽しんでいたこどもたちだったが、懐中電灯にカラーセロファンを貼ると光の色そのものが変わると気付いたAさん。カラーセロファンを貼って映る明かりを満月、何も貼っていない明かりを太陽みたいと表現していた。何かを映して遊んでいたこどもたちだったが、こども同士で少し話を作ってみたりという遊びが始まってきている



【シアタールームを作ろう】12月6日（金）

Aさん 「先生、ここ映画館だよ」

先生 「映画館なのに明るいわね」

S君 「そうだよ。映画館って暗いよね」

Kさん 「あの窓があるから明るいんだよ」

S君 「じゃ、新聞紙を貼って暗くしよう」

窓や入り口を新聞紙や段ボールで光がなるべく入らないようにみんなで協力しながら作業する。入り口には「しあた一る一むって書きたいけど、シアタールームってカタカナっぽいよね」と、少し文字が分かる子が言っていた。



実践事例3 「ドキュメンテーションを活用した保育の振り返り、保育の質の向上」

☆エピソード型ドキュメンテーション



ひとつひとつの場面での子どもの言葉や保育者の関り、素敵だと思ったことを写真をみて語りあったり、お互いのドキュメンテーションから学び合い、一緒に子どもの姿を共有しながら職員で話し合う姿はとても楽しそうであった。

【考察】

- ・大きくて見えやすいエピソード型ドキュメンテーションをすることで、保護者と園児との会話のやり取りする姿が多く見られるようになった。
- ・子どもたちが興味、関心を持っていることや感じていたこと、子どもにとってこの環境や保育教諭の関わり、思い、願いがどのような意味をもっていたのかを語り合うことができた。教育・保育要領を見ながらの振り返りにも繋げることができた。

【考察】

・日頃から保育教諭はすぐにこどもたちに答えを出すのではなく、問いかけて考えさせる声かけを意識している。その過程があり、コマ遊びで、回りにくいことに気づき、どうすればいいか考え出す。自分たちでテーブルを準備し場所を決めたことで、より遊びに夢中になり楽しみ始めることにつながった。遊びこむことで「コマ・スタジアムに光を当てたらもっと楽しくなるかも」とアイディアもでて光に興味、関心につながり、そこからの子どもたちの姿と思い、教諭の願いのバランスがうまく融合し遊びこみにつながった。

・身近な自然物を使い楽しむ事で光の美しさや不思議さにつながった。廃材や折り紙も使いながらいろんな発想を光りで表現している姿は創造性の芽生えにつながっている。

Ⅶ まとめ

☆成果

・4月に「保育の中のこどもの声について考える」をテーマに園内研修をすることで、こどもの声から興味や関心を持っていることや感じていることを考えたり、そこから保育教諭の願いやどう環境構成、援助をしていくのか考えることにつながった。

・ドキュメンテーションを使い、幼保連携型認定こども園教育・保育要領も見ながら、どのような力が育まれているのか等、こどもの姿についていろんな角度の視点から語り合う事ができ、保育の質の向上につながった。

・一人一人の声が友達の中で広がり、驚いたり、喜び合ったりする仲間がいることで、こどもたちはさらにいろんな事に興味、関心を広げながら環境に働きかけるようになり、遊びこみにつながっていると感じた。

・こどもの声を大切にしながら、集まりでそれぞれの思いを認めながらつなげていった事で「もっと遊びたい、知りたい」との気持ちになり、主体的で豊かな遊びにつながった。

☆課題

・興味、関心があることを捉え、イメージしたことを製作する遊びや表現遊びを積み重ね、遊びこみ、図鑑などを見て楽しむ姿が見られたが、好奇心を広げ、探究していく過程が少なかったと感じる。もっと遊びこみにつながるように、好奇心を膨らませ、自ら遊びを深めるための探究心につながるような必要な情報の環境設定が今後の課題である。

・こどもの思いや願いを大切に捉えながら、こどもの主体性と保育教諭の意図をバランスよく絡ませながらの保育の展開が今後の課題である。